

### 後山襖からくり舞台復活公演

#### 祖谷からくり舞台保存会 会長 岩崎是昭

今を去る八年前、三好郡郷土史研究会が祖谷地方に残る農村舞台の調査を始めた結果、襖絵が五つの地区に保存されている事が判明した。本調査の手始めが後山の小さな阿弥陀堂の天井に棧木を渡し、その上に横並びにされた襖絵を一枚ずつ下ろして並べ写真やビデオに収録したのが始めである。続いて徳善地区の四十五枚、小祖谷地区五十枚（廃棄）、田ノ内地区五十四枚、有瀬地区七十八枚で廃棄分をのぞいて三百余枚の存在を確認した。平成十六年秋、村の文化まつりに、日本経済新聞社鈴木康浩徳島支局長をお招きして「阿波農村舞台と西祖谷の現状」と題した講演をいただき、県下の状況を認識することができた。

その後東京理科大学の川上光洋先生も来村され、後山地区の「組立式農村舞台と襖からくり」について極めて珍しい存在であるとの折紙を付けられ、修復と保存を教育委員会に託され、地域伝統文化伝承事業の一つとして申請し、十六年度、十七年度の指定事業として委嘱を受け、川上氏を先頭に阿弥陀堂の床下に残されていた部材を基に舞台復元に着手し、襖絵は鳴門市の元木竹林堂、元木央氏の熱意と技術により完成したのである。

特筆したいのは、復活公演にあたって祖谷地方の文化財指定を受けている数多くの民俗芸能の発表に加えて、川上先生の紹介により人間国宝鶴賀若狭塚氏、舞踊家の檜千晶さん、阿波木偶箱廻しを復

活する会の中内正子さん一座の賛助出演と、豪勢なプログラムで講演できた事は、関係者ももとより村をあげて感謝している次第である。

本番の公演までの半年、語り尽くせないほど多くの問題を抱えたまま週一回の操作練習は続けられ、地元後山地区の人々の物心両面にわたる支援と奉仕、諸機関や団体の援助がふるさと文化の再興の重きに気づき、復活公演の成功を願う心が一つになった賜と信じている。

公演当日は、一番心配していた天候は人々の願いをよそに冷たい秋雨が氷雨に変わり、天井の無い客席に降り注ぎ、婦人会の心づくしの「そば米雑炊」の温かさだけが人々の心に沁みていると思っ

て。ふるさと文化の活性に対する重要な要素に継承という大きな課題がある。幸せな事に後山には青年時代に襖からくりを操作した経験者が三人現存していたから技術を伝える事ができ、「物」ではなく技術や精神が継承できたという事である。

「物」は、修復・保存できるが技術やこころは、人から人へ継承しなければならぬ。特に過疎化の進む現在この事が大きな課題としてひしひしと迫ってくるのを痛感した。「子供に伝える」この事すら不可能な実態がこの山奥に大きく立ち

はだかっている。そんな条件下だけに五十年目の復活公演が文化的価値を証明してくれたのと同

時に、こんな山の中に、こんな物が、と多くの人々に知らせてくれた報道関係の皆さんや県内外の関心ある人をはじめ、遠くは北海道や群馬県などふる里を後にしていた地元の人々も帰省して復活公演を涙を流して観てくれた事。奈良県から幾日も泊まりがけでボランティアとしてがんばり抜いた青年や、川向かいの隣町から誠心こめて作製してくれた大道具や小道具、私物の TENT や足場板をトラックで運びこみ舞台を整えてくれた方々に、公演が終わってからも感謝と感激の涙が流れるのをどうする事もできなかった。来年も公演するのか？との問い合わせが数多くあったが、辺地であり、常設できない場所だけに設営の経費や協力者の有無、行政の理解と援助等々大きな壁を感じている。



### 第三回法市農村舞台公演報告

#### モウブ 山口武治

三回目を迎えた法市農村舞台公演は、今回県内の団体の出演によって行われた。昨年と比べて、会場への道路が整備されたことや、トイレが設置されたことで公演できる環境が良くなってきた。

開演時刻が近づくと、受付付近ではいつものようにジャンベの演奏が始まり、良い雰囲気を作られてきた。観客は二〇〇人を超え、ほぼ満席となる。

まず、城北座の「傾城阿波の鳴門 巡礼歌の段」が上演され、その後、船底舞台から平舞台への転換が行われた。次は地元の木村陸子さんの糸繰り人形だ。地元でこんなユニークな創作活動をやっていることに驚いた。続いて、みさと笛の合奏があり、澄みきった音色に観客は聴き入っていた。続く徳島県民謡協会の「阿波の民謡」は大元誠治さんの一人舞台。最後に阿波三郎座による「京女郎」は和洋の衣装による舞踊であるが、ピンクの衣装によるバレエは農村舞台というロケーションに不思議とマッチしていた。

私達、会のメンバーは二名で裏の進行を担当したが、地元の司会の方も手慣れたもので、うまく進行したように思う。今後、農村舞台の公演を継続していくうえで私たちの会ができる大切な役割は、出演者の確保を図るための支援、出演者との専門的な打合せ、そして、当日の舞台運営などであることを強く感じた。

平成17年10月2日(日)第3回法市農村舞台公演



with you「糸繰りによる阿波踊り」



城北座「傾城阿波の鳴門 順礼歌の段」



阿波三郎座「京女郎」

### 第三回徳島城内小屋根公演を終えて

#### 阿波人形浄瑠璃芝居 小屋根実行委員会事務局 小原伸二

今年度も多くの方のご協力やご支援をえて、無事公演を終えることができました。第一日は雨で順延か実施か、微妙な状況であった。行政が主催のイベントなら中止・順延とするところを、強行突破してしまっ。結果的には雨も小ぶりでないとか持ちこたえることができ、その日でないとは出演できないところもあったので、強行して正解であった。そもそも小屋掛というのは野外イベントであり、例年、当日になってみないと天候はどうなるかわからず、いつもハラハラする。でも、うまくいったときの達成感、室内



平成17年10月8日(土)、9日(日) 第3回徳島城内小屋根公演「阿波人形浄瑠璃芝居」

以上のものがある。ふりそぐ太陽の光やそよぐ風など、自然の恵みをすべてプラスに転化できるからである。それから、今回行われた浪曲歌謡ショーや講演などの人形浄瑠璃以外の演目も、小屋掛公演には合っているように思えた。

第二日目の庄巻は、淡路からの三原高校郷土部の「戎舞」であった。観客の笑いを誘う部分は何ヶ所もあり、「これが高校生なのか」と技術の高さに驚き、「徳島もがんばらない」と痛感した。トリのあわ芸座の「釣女」のときには、会場は観客があふれ、最高の盛り上がりとなった。

昨年度と比較して、場所を徳島城博物館南側に変更し、人の集まりには非常に便利であった。また、経済的負担を軽くするにも「借景を生かした小屋掛」を用いたが、予想以上に風情があり、映像的にもなかなかよかったように思った。